

平成二十七年十二月の作品（十二月十一日（金））

於 文京シビックセンター 5階D会議室

竹生島

しづもりて神仏の島鳩におの声 （一江）

脇道の人影もなく石露っはの花 （正雄）

年忘れ稚児もひとりに数へけり （貴美）

寒稽古終はりて子らの大欠伸 （前歩）

轆轤ろくろ引く檜かほれる冬日向 （芙紗）

廃校の尊徳像や木の葉散る （隆治）

銀幕の女神の逝ける師走かな （正佳）

落葉掃く音の密かや座禅会 （奉男）

冬の陽に山査子さんざしの赤輝けり （平六）

掃くほどに枯葉背にふる路地にふる （孝昭）

母逝きて又めぐり来し冬至の日 （太郎）